

2021 年度春学期「教員アンケート」の結果について

流通経済大学 FD 委員会

目次

[要約]	1
1. 回答者とその内訳	3
2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか	6
3. 学生の集中や理解を促す取り組みとそれらについての自己評価	8
4. 学生アンケートの結果を踏まえた改善計画	10
5. 特別な配慮が必要な学生への対応	12
6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案	12
7. 学生アンケートに関する要望	15
8. 教員アンケートに関する要望	16
9. 大学への要望	16

[要約]

1. 回答者とその内訳

・2021年度春学期の教員アンケートには、144名が回答した。内訳は、専任教員が79名、非常勤講師が65名であった。すべての学部をつうじた回答者の総数は、前年度の春学期と比べるとやや減った（149名から144名へ5名減少した）が、前年度の秋学期と比べると大きく増えた（107名から144名へ37名増加した）。特に、非常勤講師からの回答がかなり増加した（36名から65名へ29名増加した）。ただし、教員の総数は学期によって異なること、毎年春学期の回答者数は秋学期と比べると多くなる傾向があること等には注意しなければならない。

2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

・「学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか」という質問には、回答者総数の78.5%（113名）が、「とても役立っている」あるいは「概ね役立っている」と回答した。

・役立っていると回答した理由として、「学生の関心・ニーズ・要望を把握できる」、「学生の理解度や学習時間を把握できる」、「自身の取り組みに対する学生の評価を把握できる」等が挙げられていた。今学期もほとんどの授業がオンライン化されていたので、直接的に学生とコミュニケーションをとる機会が限られており、学生アンケートの回答が授業改善にとって大変有益だったと回答する教員が多かった。

・役立っていないと回答した理由としては、学生の回答の妥当性や信頼性に関するものが多かった。「少数の学生の回答しか得られていない」、「比較的成績の良かった者の回答しか得られていない」等である。また、学生アンケートでは求めている情報が得られなかったと回答した者もいた。「より有益な情報は独自に行っているアンケートから得た」、「誠実に回答しているとは思えない者がいる」等の意見があった。

3. 学生の集中や理解を促す取り組みとそれらについての自己評価

・学生の集中や理解を促す取り組みについては、今学期もほとんどの授業がオンラインで行われたため、前学期と同様にオンライン授業に固有な工夫を挙げる教員が多かった。「資料・教材や授業の内容・方法をオンライン授業にあわせて見直した」、「manabaで毎回あるいは頻繁に課題を出した」、「迅速かつ丁寧にフィードバックするよう心掛けた」、「オリジナルの動画ファイルや音声ファイルを作成し公開した」、「動画を分割し、ひとつひとつが短い時間に収まるようにした」、「オンライン会議アプリを利用して授業をライブ配信した」、「ブレイクアウトルームを利用し、学生どうしで話し合える機会を増やした」等である。また、取り組みの自己評価については、概ねうまく機能したと回答した教員が多かった。

4. 学生アンケートの結果を踏まえた改善計画

・学生アンケートの結果を踏まえた改善計画については、教員と学生のコミュニケーションや学生同士のコミュニケーションに関する方策を挙げる教員が多かった。「manabaの掲示

板のスレッドを積極的に用いる」、「授業時間以外にライブ配信のオフィスアワーを設ける」等の方策が挙げられていた。また、アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の報告時間を増やすことを検討している者も多く見られた。課題の提示の仕方や提出のさせ方を工夫して、誤解によって提出しなかったり、不完全なものを提出したりするのを減らしたいという意見もあった。

5. 特別な配慮が必要な学生への対応

・特別な配慮が必要な学生への対応としては、「課題の締切を延長した」、「(留学生のために)ふりがなをふった教材を作成した」、「Eメールや電話で個別に連絡をとり、学生を励ました」、「関連部署(国際交流課や教育学習支援センター)に協力を求めた」という回答があった。

6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案

・対面授業の教育効果や本学の魅力を高めるためのオンライン授業の活用については、以下のような提案があった。オンライン授業で用いられた各種のツールを使えば、学習支援・個別指導・グループワーク・情報の取得と共有がより容易になる。時間的・空間的な制約が緩和・解消され、不要な欠席や休講を避けられる。補講や定期試験にも使える。外部講師を招いたり、国内・海外の大学と連携したりするのがより容易になる。授業の動画をアーカイブとして残せば、他の教員の参考になる。授業の動画をオープンキャンパスで公開すれば、潜在的な入学志願者に対して訴える手段になる。

7. 学生アンケートに関する要望

・学生アンケートについての教員からの要望としては、回答者数を増やす策の検討が最も多かった。また、学生が真剣に解答するような仕組みにすること、良い評価や悪い評価の理由が分かるような質問を設けることを望む者もいた。

8. 教員アンケートに関する要望

・教員アンケートはPDCAを支援するツールなのだから、現在のように教員ごとではなく、科目ごとにアンケートを作成し回答するように改めるべきだという意見があった。

9. 大学への要望

・オンライン授業を本格的に導入するならば、設備の増強や専門家による教材作成の支援が必要だとの意見があった。また、学生に著作権について学ばせ、学生がRingやmanabaを使って習慣的に情報を収集できるようになるのが先だとの意見もあった。

・留学生向けの語学科目について、能力によるクラス分けが徹底できていないのではないかという意見があった。また、そもそも問題なく授業を受けられるような日本語の能力を備えていない学生を受け入れていることに対する苦情もあった。

以上

1. 回答者とその内訳

●学部別の回答者数

	2020年度・春	2020年度・秋	2021年度・春
経済学部	41	25	44
社会学部	37	34	43
流通情報学部	24	17	20
法学部	21	15	19
スポーツ健康科学部	22	16	15
無回答	4	0	3
	149	107	144

●専任・非常勤別の回答者数

	2020年度・春	2020年度・秋	2021年度・春
専任	92	71	79
非常勤	56	36	65
無回答	1	0	0
	149	107	144

●専任教員の回答者数（学部別）

	2020年度・春	2020年度・秋	2021年度・春
経済学部	24	17	23
社会学部	19	18	19
流通情報学部	17	13	16
法学部	13	9	11
スポーツ健康科学部	18	14	10
無回答	2	0	0
	93	71	79

●専任教員の回答率（学部別）

経済学部	60.5%
社会学部	61.3%
流通情報学部	72.7%
法学部	39.3%
スポーツ健康科学部	27.8%

●非常勤講師の回答者数（学部別）

	2020年度・春	2020年度・秋	2021年度・春
経済学部	17	8	21
社会学部	18	16	24
流通情報学部	7	4	4
法学部	8	6	8
スポーツ健康科学部	4	2	5
無回答	2	0	3
	56	36	65

●科目区分別の回答者数

	2020年度・春	2020年度・秋	2021年度・春
専門科目	84	63	82
教養科目	65	44	59
無回答	0	0	3
	149	107	144

●経験年数別の回答者数

	2020年度・春	2020年度・秋	2021年度・春
1年未満	18	11	11
1年以上3年未満	31	22	29
3年以上	99	73	103
無回答	0	1	1
	148	107	144

●ひとりの教員が担当している科目の数

(1) 講義科目

	人数	割合
0科目	23	16.0%
1科目	25	17.4%
2科目	37	25.7%
3科目	19	13.2%
4科目以上	35	24.3%
無回答	5	3.5%
	144	

(2) 演習 (ゼミ)

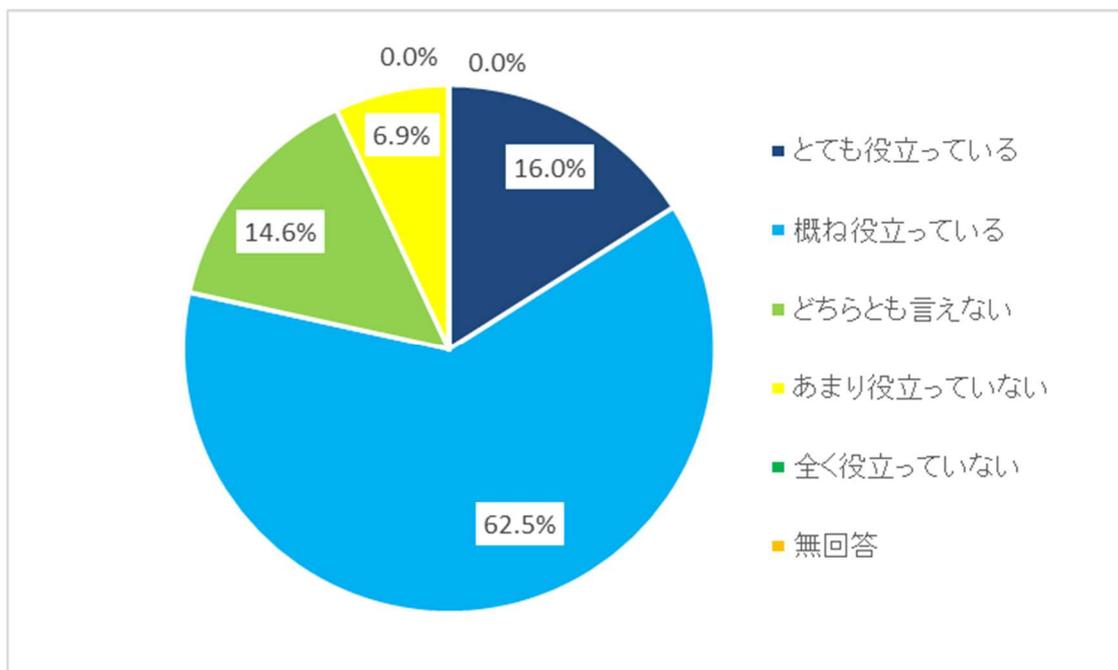
	人数	割合
0科目	61	42.4%
1科目	19	13.2%
2科目	17	11.8%
3科目	24	16.7%
4科目以上	17	11.8%
無回答	6	4.2%
	144	

(3) その他 (語学、体育実技、コンピューター、教職)

	人数	割合
0科目	80	55.6%
1科目	14	9.7%
2科目	16	11.1%
3科目	7	4.9%
4科目以上	20	13.9%
無回答	7	4.9%
	144	

2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春
とても役立っている	29	15	23
概ね役立っている	94	71	90
どちらとも言えない	23	15	21
あまり役立っていない	3	6	10
全く役立っていない	0	0	0
無回答	0	0	0
	149	107	144



(1) 役立っていると思う理由 (主なもの)

●学生の関心、ニーズ、要望を把握できる

- ・今学期、ゼミ以外はほとんどオンラインになってしまい、学生とのコミュニケーションがあまりとれなかった。学生の考えや状況を知るのに、学生アンケートは有用だと考える。
- ・学生が何を望み、どこに難しさを感じているかを知ることができ、参考になります。

●学生の理解度や学習時間を把握できる

- ・学生の理解度を知ることができた。また、担当科目のオンライン適性を知ることができた。
- ・振り返る機会を十分とったつもりだが、学生は満足していないようだ。それぞれの理解に応じて、同じ科目でも差をつけたのだが、まだ不十分だったという事が分かった。
- ・再履修のクラスで、勉強時間がかなり不足していることが分かった。

●自身の取り組みに対する学生の評価を把握できる

- ・オンラインでの授業はまだまだ試行錯誤をつづけている部分があるので、学生からのフィー

ドバックは大変参考になっています。

・学生が非常におとなしく、対面授業の際も、学生が講義内容や進め方をどのように感じているのか把握しづらいと思っていました。特に、今年度は講師着任初年度で、途中からオンラインデマンドにもなりましたので、学生さんの意見はとても参考になりました。

・自由記述において、現在のオンライン授業の進め方について、肯定的な評価が得られていることが確認できた。

・匿名による回答のため、信頼性が高いと感じる。

・Students can let you know things you are not aware of yourself. Also, they can confirm whether or not your new ideas are working.

(2) 役立っていないと思う理由 (主なもの)

●妥当性や信頼性に問題がある

・アンケートの妥当性や信頼性が不明である。たとえば、「評価の高い授業は本当によい授業をしているのか」という点については、実は「楽に単位を与えてくれる授業に対して学生は好意的に評価するだけなのかもしれない」というように、本来知りたいものと実際に測っているものとの間にズレが生じている可能性もある。

・苦情および要望をしたい学生が率先して回答しているので、回答に偏りが見られることが推測される。

・アンケートに回答している学生は比較的成績も優秀な学生が多いと推察します。成績不良者、単位がとれなかったものからどう意見を聞き出すかが重要と思います。

・アンケートの回収率が低く、アンケート結果が広く受講生の意見を反映しているとは言えない。

・もともと履修者が少数の科目なので、回答を要約した統計数値にあまり意味がない。

・成績や出席率とリンクしていない。回答の信頼性が評価できない。

・ほとんどの項目において学生の評価は3~5に収まるのだと思われる。そうすると、全学平均や区分平均との差が見えづらく、自分の授業のどこが良くてどこが悪いのかがわかりにくい。すごく言い方は悪いが、「本当にひどい授業をしている教員」以外は、ほとんど平均周辺に収まってしまうのではないか。

・学生が適当にしか答えていないようだ。すべての科目についてアンケートを一斉に実施するのは、学生への負担も多く投げやりになるのかも知れない。

●求めている情報が得られなかった

・このアンケートからは、学生が具体的にどういった授業を求めているのかまでは見えてこない。「なぜそう思うのか」、「どこが問題なのか」等の具体的な点が分からない。

・全体的な傾向は分かるかもしれないが、受講者数の多い科目は学生の求めていることが多様だと思う。アンケートでは実際の要望等が伝わってこないなので、授業の中で独自のアンケートを実施するなどして、授業改善のための情報を得ている。

3. 学生の集中や理解を促す取り組みと、それらの取り組みの成果についての自己評価

●オンライン化にともなう内容・進度・資料・方法等の見直し

- ・対面授業以上に興味がある内容を用意しなければいけないと考えました。
- ・1枚のスライドや資料に情報が詰め込まれすぎないように、ページを増やした。
- ・PDF資料の文字が判読しやすいよう、UDフォントを使用した。
- ・スライドに図や短い動画(1~3分)を多く組み込んで、退屈させないようにした。
- ・講義資料のほかに要点整理の資料を作成した。
- ・資料を見やすく工夫したほかに、動画の視聴時間と学生が作業する時間を区別してメリハリをつけるようにした。
- ・対面よりも少しゆっくり話すことを意識した。また、資料の図表や写真などにマークをつけ、どこを説明しているのかわかりやすくした。
- ・オンデマンド(動画配信)では、問いかけるような話し方をしたり、雑談を入れるなど、対面と変わらないような授業になるように心がけた。
- ・最終試験は、テストバンクから20問程度の短答式問題をランダムで出題し、何回チャレンジしても良く、最高得点を評価点とする方式を行っている。これによって学生の取り組みや意欲は向上していると感じられる。

●宿題を毎回あるいは頻繁に出す

- ・毎回、テストと練習問題の提出を必須にしたことで、学生の理解度を測ることができた。学期末の評価がしやすかった。
- ・講義科目については、継続的な努力を促すために、原則的に授業期間中に毎回実施する小テストの得点の合計のみによって、成績の等級が決まるようにした。
- ・講義科目におきまして、文章力の向上を目的として、毎回、任意提出の作文課題を提示しています。
- ・毎週「何度でも受験可」なテストを実施。正解できない問題があれば、能動的に内容の確認学修を行うよう促した。

●意欲のある学生が任意で取り組める追加的な課題を出す

- ・良く理解している学生には、発展的な課題を提示し、チャレンジするように伝えた。モチベーションを上げるように心がけた。

●迅速かつ丁寧にフィードバックする

- ・毎時間、簡単なレポートや小テストを課し、その結果をフィードバックすると同時に、学生の質問に答える。良い質問・まとめがなされたレポートを匿名で公開した。
- ・毎回レポートを提出させ、コメントを返した。10人程度の学生から「教員からコメントが毎回あるのでうれしい」という意見があった。

●オリジナルの動画・音声ファイルの作成

- ・本年度から講義資料を事前に PDF で配信することに加え、YouTube に講義動画を UP して、資料と動画の両方で学習できるようにした。各自の都合の良い時間に視聴できるため、理解が深まったという意見があり、動画の配信は今後も継続することにしたい。また、今年度は全体的に成績が向上しているという印象を受けた。
- ・長時間の動画だと集中力の維持が困難であるうえに、一度視聴を中断してから再開した際に、「今何の話をしているのか」を把握することが難しくなるだろうと懸念した。そのため、動画を内容ごとに分割して動画一つあたりの時間を短くすることで、学生の集中力の維持と内容把握の容易化に努めた。
- ・学生が動画を見やすいように、編集に気を遣った。具体的には、一時停止しやすいようアイキャッチをいれたり、重要な語句や説明の箇所には効果音を入れる、開始時と最後に必ず決まった音を鳴らす等。
- ・ただ動画を聞き続けるのではなく、途中で考えてもらうための問いをいくつも用意した。

●授業のライブ配信の実施

- ・Zoom によるリアルタイム・オンライン・ミーティングの実施により、双方向的な授業を心がけた。学生からも肯定的な評価があった。

●グループワーク、ディスカッション、学生間のコミュニケーションのファシリテーション

- ・3人でのグループ活動を多くしたが、学生に参加してもらうために、記録・司会・発表と役割を決めて、傍観者を作らないようにした。
- ・3~4名の小グループに分けて、短時間のリアルタイムのスピーキングアクティビティを実施した。学生一人ひとりにアウトプットをさせる間、待っている人数を減らし、一人ひとりに対してフィードバックを与えやすくするためである。
- ・オンライン上で、グループでワークができるようなアプリをいくつか試しましたが、代表者が Word を共有して、書き込んでいく形でとどまりました。今後は Google Drive の共同編集を利用してみたいと思います。
- ・ブレイクアウトルームを利用し、学生どうしの話し合いの時間をもった。
- ・提出された課題について学生同士でピアレビューをさせて、オンライン授業ではあっても学生同士のコミュニケーションがとれるよう工夫をした。学生からは他の学生からコメントをもらえてうれしいという声があり、一定の効果があったと感じている。
- ・Miro を用いてグループワークを実施した。

●双方向性の確保

- ・授業後に質問のある人や話したい人は残ってと声をかけると多くの学生が残っていたので、それは良かったと思う。
- ・manaba にスレッドを立てて、質問の受付を行いました。学生からの質問や意見などをオープン形で交流できました。

●現実の事例の紹介

- ・最新の動向、ニュース等をなるべく多く取り入れた。
- ・日本語の中に取り入れられているフランス語(たとえば「ミルフィーユ」)について取り上げたり、日本でよく知られている美術館(オルセー)が教科書に現れているときにはその概要について説明するなど、できるだけ学生の日常生活とフランス語との関連付けを強めるようにしました。

4. 学生アンケートの結果を踏まえた改善計画

●学生の関心に合わせる

- ・龍ヶ崎キャンパスの授業のため、スポーツに関わる題材を準備する予定です。

●ニュースや最近の話題の紹介

- ・時事問題を活用して、担当科目に対する興味関心を高めてもらおうと考えています。
- ・語学授業では、発音と文型のほかにも、その国の文化を理解するのが重要です。インターネットを活用して関連サイドを紹介したいと考えています。
- ・もう少しフランス及びフランス語への関心を強めるため、フランスで起きている出来事など(コロナの状況など)をコラムのような記事にして説明文に付けようかと思っています。

●アクティブ・ラーニング

- ・学生が、ただテキストの内容を覚えるだけでなく、その内容を批判的に考えてみるアクティブ・ラーニングを試みたい。
- ・アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の報告時間を増やす予定である。

●音声・動画ファイルの提供

- ・現在、資料提供型の授業を行っているが、動画も織り交ぜながら授業を展開していきたい。
- ・対面授業が開始された場合でも録画を残して復習に活用してもらう予定である。

●動画の分割

- ・一部の学生から、講義動画の分割を希望する声があり、今後、講義動画の分割を検討していく予定である。

●課題の出し方・提出のさせ方

- ・一部の学生から、ビデオ受講期限、課題提出期限の長さが、あとでも見れる、やれるとの過信を生んでしまい、結果的に課題をため込んで提出できなかった旨を聞いた。期限はむやみに延長するのではなく、節度ある期限(例えば2週間程度)で行いたい。
- ・定期試験はレポートとし、manaba にアップしてもらう形式を取っているのですが、指定した課題のすべてに答えない(部分的にしかレポートを提出しない)学生さんが必ず少数出てしまいます。こうした学生さんには個別にメールを送り、未提出部分について提出を促す

のですが、提出しないままの人もあります。課題の提示の仕方を改善しようと考えています。

●学生間のコミュニケーションの促進

- ・オンラインでも学生相互間でのディスカッションを増やしたい。
- ・できるだけ、グループワークを取り入れて、学生同士のコミュニケーションの機会、質問の機会を増やしていきたい。
- ・自分たちで読解の問題を作って、お互いに考えるような授業をしたい

●講義資料や小テストをアップロードする時間のルーティン化

- ・基礎的なことについて失念してしまったことが1、2回あったので、レジュメをアップロードする時間、小テストの開始時間等、十分に確認しようと考えています。

●授業の設計

- ・前回の簡単な復習を、毎回の授業のイントロに挿入して、話題の接続を図る。
- ・オンライン授業であろうと、対面授業であろうと、(1)予習として資料を読ませる、(2)単に読ませる、とただだけでは読んでこないの、小テストを課す、(3)授業では資料を読んだことを前提にして質問を提出させ私はそれにこたえる、といったやり方を中心にした。
- ・大教室講義における講義中課題の解答・解説を口頭での説明のみにとどめていたので、来学期は資料として配布する予定です。

●資料の見直し

- ・提示した授業資料に対して、「文字が多くて読みづらい」や「余白がなさすぎる」という意見を頂きました。1回の授業で伝えたいことを絞り、学生の見やすい資料を作成していきたいと思います。
- ・レジュメを再点検し、わかりにくい点や不足点の補強を予定しています。

●小テストの実施方法

- ・小テストについて、現在は固定された問題が固定された順序で出題され、学生が1度だけ回答できる方式を採っている。それを、登録されたストックからランダムに選ばれた問題が出題され、毎回3度まで回答できる方法に変える。

●マナーの徹底

- ・欠席する、あるいは欠席した場合に、メールで連絡をするように学生に周知したいと思います。

●データの収集・分析の実践

- ・ゼミでデータの収集、資料の分析、結果の発表などを通じて、学生の意欲を高め、能動的な学習を促そうと考えています。

5. 特別な配慮が必要な学生への対応

(1) 身体的あるいは精神的な障害のある学生への対応

- ・障害のある学生がいて、グループでのプレゼンに不安を抱えていた。そのため、その子なりの関わり方をグループの他の学生にも提案し、最後までやり遂げさせることができた。
- ・ゼミにおいて、昨年度に引き続き、知的障害を疑われる(ただし、当人はじめ関係者からの申告はない)学生の対応に、絶望的に苦心している。教員一人の努力や工夫では全くどうにもならない。関係各機関に助力を求めているが、効果が上がっているとはとてもいえない。今年度春学期は対人関係で深刻な事態になりかねないトラブルを発生させたため、学生部や教育学習支援センター等の助力を借りたりしている。授業の進め方にも大幅な制約が生じてしまっている。他の学生の学習する権利を実質的に侵害しているといつて過言ではない状態に陥っており、彼らに対して申し訳ない気持ちに苛まれる。

(2) 極端に消極的な学生やモチベーションが低い学生への対応

- ・数回実施したリアルタイム授業に関して、余裕を持って実施連絡と準備確認を行ったが、出席しない(できない)受講生がみられた。個人宛にメール連絡をしてコミュニケーションがとれた学生は出席するようになった。一方、何度か連絡を試みたが返信が来ない学生に関しては、残念ながら最後まで欠席であった。
- ・個別にコンタクトすると反応がよかった。その学生の状況に応じた支援が必要だと思う。それは、個によって抱える課題が大きくことなるからだ。個別フォローが効果的と感じた。

(3) 留学生への対応

- ・英語での回答の方が良い場合は、レポートのみ英語使用も認めた。
- ・ひらがな書きでレポート提出する留学生がいたが、それを認めた。
- ・留学生のゼミを担当しているので、日本語に問題のある学生が多い。しかし、彼らの母語使用を否定してはいけない。グループワークでの母語使用を認めつつ、ルビ付きの内容のあるテキストを用いて、内容を語るときは、日本語で楽しく語ることでできる環境をさらに整える必要がある。

6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案

(1) 対面授業の教育効果を高める手段として

●教育と学習の支援

- ・対面授業の様子を録画し、欠席者向けに講義内容のアーカイブを残すことは有益である。
- ・ハイフレックス型の授業をいち早く認めていくことで、障害のある学生も含めた学生の多様性に配慮した講義の実践をしている、という魅力を作ることができるかもしれない。それが、「誰一人取り残さない教育」につながるかもしれない。
- ・心の問題などをかかえて、登校しづらい学生には、オンラインでの授業参加は福音となる

と思う。しかし、他の学生との公平性を確保するために、規則等の整備が必要である。

・学部よりも少人数の大学院では、対面よりもオンラインの方が、意見交換が積極的に行われている。

・授業の動画の提供によって、繰り返し自分のペースで学習できる環境が整った。

・担当する授業では、YouTube で動画を視聴する形式をとっていますが、「繰り返し見られる」、「教員の話す速度や音量を自分で調整できる」という点をメリットに感じている学生は少なくない模様です。また、静かな環境の方が勉強しやすい学生や、自分のペースで勉強したい学生には、オンライン授業はとても合っているのではないのでしょうか。日本語を学習中の留学生にとっても、これらの点はメリットだと思います。

・教室講義では一度聞き逃すと理解できなくなるが、動画であればわからない部分をくりかえし視聴できるため、理解度が高い。

・学習状況の確認や復習・授業外学修時間の確保等の観点から、通常授業でも、manaba の小テスト機能等を活用することが有意義である。

・manaba の小テスト機能は、学生の正答率やどんな誤答が多かったのかが一目瞭然のグラフにできるので、対面授業でも継続して利用したいと思います。

・manaba の小テスト機能は使える。持ち込み可の試験もこれで代替できると思う(定期試験実施に割く時間的・人的リソースを大幅に削減できる)と思うし、実際にできた。

・manaba のドリルは、小テストと異なり何度も解答できるため、学習内容が定着しやすい。通常の対面授業でも予習・復習用に使える。

・manaba で毎回レポートを提出させると、自分の考えをまとめることや文章のトレーニングになる。

・manaba を介して毎週課題を提示し、それへの解答を採点し、結果をフィードバックする方法は有効であった。

・manaba を使用した音声ファイルによるレポート提出は、対面授業でも利用したい。

・manaba で課題の提出と返却をオンラインでできるのは非常に便利なので、対面授業になっても取り入れたい。

●情報の取得や共有の容易化

・manaba のレポート提出機能を使い、学生同士で相互閲覧できるようにしたところ、学生の学習意欲が向上し、有益であった。

●個別指導

・manaba はオンライン授業の関係で、よく使っています。教材提示や、論文・レポートの個別指導など、教員と学生にとって使いやすいです。

●反転授業

・隔週で対面授業とオンライン授業を交互に行い、「反転授業」スタイルにするのが望ましい。

・本格的な反転授業とまではいかないが、講義科目で予習の成果を問う小テストを manaba

で出している。

●グループワーク

・Google Drive の共同編集機能を使って、ゼミ生の作業にコメントをつけたり、逆に学生から質問を受けています。対面でもオンラインでも継続して使用できるため、とても便利です。

・Google スプレッドシートを使って、グループワークを実施した。参加者全員が、同時に書き込めて、保存も出来る。その後のまとめやプレゼン資料の作成にも活用できる。

・Zoom のブレイクアウト機能を用いて、グループワークを行わせる。疑似対面授業のように、教員から直接フィードバックを得る時間、クラスメートのみとコミュニケーションを取る時間とメリハリのある授業進行を行う。

●時間的・空間的な制約の緩和・解消

・Web 環境下で国際交流等に資する授業、海外提携校との共同授業等について、前向きに検討する価値がある。

・海外の大学または日本の大学において同じ内容の授業を共有したい。例えば、海外の大学のオンラインの英語授業を本学の授業に活用し、本学の授業も向こうに提供するというオンライン授業の交換を実現できるように工夫したいです。

・オンライン授業を併用することで、休講措置はほぼいらなくなる。

・卒業生のキャリアを聴くインタビュー動画の視聴は学生にも好評でした。卒業生に対面授業にお越しいただく計画は叶いませんでしたが、オンデマンドに切り替えても、期待する学習効果はあったと感じています。卒業生のインタビュー、またはメッセージ動画は、授業に限らず、多くの学生に見てもらいたいコンテンツです。オープンキャンパスなどでも活用できるかもしれません。

・ゼミ演習の講義で外部の講師や遠隔地の講師をオン・オフラインで招くことを可能にし、もっとリアルな講義にできる。

●学生とのコミュニケーション

・授業時間以外に Webex を用いて質問時間を設けることは、対面授業を補完することになるかもしれないと感じています。

●補講の実施手段

・補講をオンデマンドで実施するのを推奨してみてもどうでしょうか。普段の時間割とは違う時間帯に対面の補講が入ると、受講生の出席率も低くなりますが、オンデマンドで簡単な課題とセットにすれば出席率は上がるでしょうし、補講未実施の教員も減るのではないかと思います。

●より自由な授業計画

・シラバスを見ていない前提で、多くの科目が初回にガイダンスを行っているが、事前に動

画をアップロードして見ておくように学生に指示すればよい。

- ・予習部分を動画で提示してから講義をし、終了後に講義動画をアップできたら、学生の理解度が上がるかもしれません。

- ・オンラインを対面授業の「補完」や「代替」ではなく、積極的に位置付けていく必要があると考える。たとえば1学期で4単位分の授業を実施する場合（完全セメスター制）などに、2単位分をオンラインコンテンツで配信し、2単位分を教室での授業として、いわゆる「アクティブ・ラーニング」的な手法を導入するなどといった活用方法はあり得る。

- ・対面かオンラインか、受講方法を選択することができるようにするのも良いのではないか。

（2）本学の魅力を高める手段として

- ・授業内容の一部をYouTubeで公開して、一般の高校生に興味を持ってもらうようにするなどの活用法が考えられます。

- ・Webオープンキャンパスの前に、公開する授業の予告編(15~30秒の動画)を作って、Webオープンキャンパスのときにフルバージョン(15~20分以内)を公開するといいいのではないか。

- ・オープンキャンパスの際に模擬講義をライブ配信することにより、遠隔地の入学志望者も模擬講義を受けられる。

（3）その他の手段として

- ・オンライン授業のコンテンツは、再利用可能にすると、学生も他の教員も助かる部分があるように思う。本学における教育コンテンツのリポジトリの作成・共有と活用が望ましく思う。

- ・対面授業のミニペーパー(紙媒体)の提出を、manabaを使ったオンライン提出に変更したい。

7. 学生アンケートに関する要望

（1）内容や実施方法に関する要望

- ・オンラインで回答するようになってから、回収率が下がっている。回収率を高める方法を全学として検討してほしい。教員から入力を促すアナウンスをするだけでは限界がある。

- ・回収率を上げるために、授業アンケートに回答しない学生にリマインダーを何回も送るようにしたらよい。

- ・アンケートへの回答が単なる作業にならないように、どうすれば学生が真剣に解答するのかを考えてほしい。

- ・課題のレベル及び分量に関する学生の要望を知りたいので、これに関する質問を設けてほしい。

- ・授業の何が評価されて結果がよかったのか、何が評価されずに結果が悪かったのか、評価の理由が明らかになるように質問票を設計してほしい。

- ・選択式の質問よりも記述式の質問をもっと増やしてほしい。

(2) 集計や報告方法に関する要望

- ・成績等級によって、アンケート結果にフィルタが付けられるようになると良い。

8. 教員アンケートに関する要望

- ・現在の教員アンケートは、教員ごとに作成されている。しかし、そもそもこのアンケートはPDCAを補助するツールとして提供されるものなのだから、科目ごとにアンケートを作成し、「Check (チェック)」の段階でしたことを教員に報告させるのが望ましい。

9. 大学への要望

- ・オンライン授業であったため、自分で申し出たり、学習支援センターで把握していたりするような学生でなければ、障害がある者を発見するのは難しい。
- ・対面ならば学生の様子を見て精神的なサポートもできるが、カメラがオフになっている場合は学生の様子が分からず難しい。リアルタイムの授業で、できる限りサポートしたが、時間がかかってしまい、他の学生からの不満につながった。
- ・現在はそれぞれの教員の工夫で教材を作成していると思いますが、オンライン授業の教材を作成する専門スタジオやアドバイスしてくれる方がいると良いのではないのでしょうか。
- ・教室にオンライン授業用のカメラを備え付けてほしい。対面授業とオンライン授業を併用する場合、教員個人のノートパソコンのカメラを使ってオンライン授業を行っているが、カメラの切り替えなどが難しく限界がある。教室の天井にカメラを設置し、対面授業の様態をそのままオンライン授業受講者に配信できるシステムを構築してほしい。
- ・「オンライン授業の積極的な活用」に入る前に、学生たちに著作権について指導する必要がある。
- ・動画を提供しても見ない学生が多数いる。また、毎回行っていた小テストも、manabaのアラート設定をしているにもかかわらず、テストを受けていない学生が多数いた(動画を見ていれば解ける問題にもかかわらず、結果、悪い成績となっている)。オンライン授業の活用の前に、まずは学生がメールやmanabaからの連絡を定期的を確認するような状況にすることが必要ではないか。
- ・たびたび「日本語がまだあまりできないが授業を受けたい」という相談が(時に英文メールで)ありますが、教科書の読解が主となる授業であるため対応が難しいです。たいしては「動画や教科書に訳をつけて欲しい」という要望が書かれていますが、毎週は負担が大きすぎてできません。留学生に対して、受講しやすい授業を示す等の方策はないのでしょうか。できるだけ平易な言葉で返信を書き、英文で来たメールにはできるだけ英文も書き添えています。でもその日本語の能力からして返信の内容を十分に理解できているのか疑問です。シラバスをある程度理解していれば、日本語の読み書きに強い不安のある学生はこの授業の受講を検討しないとも思いますので、履修登録の段階で配慮を必要としているのではないかと思います。

以上